

10月22日(月)

ラクダよ、行きなさい

聖書朗読 ルカ 18:18~30

金持ちが神の国に入るよりは、らくだが針の穴を通るほうがもっとやさしい。

ルカ 18:25

今日のカ

2012年10月22日~10月28日

翻訳 鈴木めぐみ

編集 岩田欣三

この冊子の聖句は、新改訳聖書第三版を使用しています。

御茶の水キリストの教会

イエス様のこの言葉は、弟子たちを大変驚かせました。『それでは、だれが救われることができるのでしょうか。』(マタイ 19:25)。そればかりか、他の人々もこの話を理解するのに長い時間を要しました。昔、エルサレムには、ラクダが実際にかがまなくては通過できなかった「針の穴」という名の門があったのをお聞きでしょうが、考古学的には、この門の出現は、イエス様がたとえお使いになった1,000年程後のことです。

このたとえ話のポイントは、金持ちの人が天の御国に入るのは、神様なしでは不可能なのだという真実です。

神様がどうやってラクダに針の穴を通らせるのか私にはわかりません。しかし何事も神様の力をもってすれば、問題なく成し遂げられます。この若い金持ちの身分のある青年は、残念ながら自分の人生にこの神様の奇蹟が働かれることを望みませんでした。

ルカの福音書では、この話のすぐ後に神様がラクダ(金持ち)を針の穴に通されて、天の御国へと導いた話が記されています。金持ちのザアカイは、18章の若い青年とは異なり、神様の助けによって針の穴に勢いよく導かれていきました(ルカ 19:1~10)。ザアカイは神様への愛を、イエス様に対する信仰を、そして周りの人々に対する悔い改めを、実際に行動で表わしたのでした。

神様にとって不可能なことはありません。ラクダよ、さあ行きなさい!

聖歌 264

祈り 父なる神様。あなたは、私たちが達成不可能なことを成し遂げてくださるお方です。あなたから授かるものだけが、私たちが人生で最も大切にするべきものです。どうか、あなたの永遠の祝福を私たちに与えてくださいますように。

イエス様の御名によって心から祈ります。アーメン。

アル・コーネル

ウィスコンシン州 ヒルスボーロー

10月23日(火)

水がめを置きなさい

聖書朗読 ヨハネ 4:27~38

女は、自分の水がめを置いて町へ行き、人々に言った。「来て、見てください。私のしたこと全部を私に言った人がいるのです。この方がキリストなのではないでしょうか。」

ヨハネ 4:28~29

水は生きるために不可欠です。イエス様が井戸で出会った女性は、救い主にお会いした時、毎日行わなければならない水汲みの最中でした。しかしこの方がどなたであるか、そしてどんな役割を担っておられるかに気づいた時、彼女は大切な水がめを置いてこの救い主のことを皆に知らせにいきました。

これが私たちだったら、このイエス様との出会いのニュースにどう対処するのでしょうか。スーパーマーケットで「そのうちに伝道したい」と思っていた近所の知人に会っても、忙しすぎてやっぱり話せないでしょうか。神様が与えてくださった機会なのに、私たちはきっと、自分の水がめを置くことはしないのではないのでしょうか。

また学校で、福音を知る必要がある女の子に、何も話しかけずにいつものように素通りしてしまわないでしょうか。チャンスの扉が開かれたというのに、私たちはここでも水がめを置くことはしないでしょう。職場のある同僚が、信仰を求めて質問してきました。霊的な答えを見いだせずに悩んでいるようでした。こんな時に、その人に対して自分の仕事上の報告書を出すことを優先していないのでしょうか。私たちはやはり、水がめをそこに置くことはしないのでしょうか。

私たちは教育を受けるために学校に行きます。家族のためにスーパーで食料品を購入します。働くのは利益をあげるためだけでなく、人々にサービスや物資を提供するためです。私たちはみな重要な役割を担っています。このサマリヤ人の女性もそうでした。しかし彼女は、私たちに力強い手本を示してくれました。必要であること全てをおいて、イエス様を最優先したのです。どうか気をつけていきましょう。神様は私たちに証人となる機会を与えてくださいます。その時はぜひ私たちも喜んで水がめを置き、愛する父なる神様の尊い働きを担う一員となれますように。

讃美歌 313

祈り 天の父なるお父様。日々の雑事や心配事がどんなに大切に見えても、あなたの聖なる働きのためには、それらを一旦横におくことができますように。イエス様の聖なる御名によって祈ります。アーメン。

ローラ・マリー・ゴード

カリフォルニア州 ブライス

10月24日(水)

賞味期限

聖書朗読 ヨハネ 6:25~29

「あなたがたが、神が遣わした者を信じること、それが神のわざです。」

ヨハネ 6:29

バーゲンセールはみんな大好きです。私たちはスーパーマーケットで「一つ買うと一つタダ」の表示に弱いのです。今日の箇所に登場する人々も同じです。その人々とは、イエス様が奇蹟を用いて養われた5,000人の群衆たちです。そして彼らはもっとタダでもらえる食糧を探していました。彼らは素晴らしい奇蹟が行われるのを目の当たりにしたところでしたが、しかし彼らにとってその価値とは、自分たちが肉体的な恩恵を受けるところにありました。心ではなく、胃袋が満たされることにありました。説教者として活躍したアメリカのガイ・ウッズはこう記しました。「彼らは神ご自身を求めたのではなく、何かを与えて下さる業を求めた」。

スーパーで食料品を買う時、私はいつも賞味期限を一つ一つチェックします。一生懸命働いて稼いだお金を、明日すぐにだめになってしまうものに誰が費やすのでしょうか。でも地上の食物はやがて腐敗します。しかし永遠のものには賞味期限がありません。私たちは物質的に満たされるために月々多くの支払いをし、そのために懸命に働いています。それに比べて、どれだけ頻繁に神様がこの地上に送ってくださった永遠なるお方を求めているのでしょうか。私たちのこの地上での使命は、救い主を知って信じ、賞味期限などないお方によって満たされることを求めていくことではないのでしょうか。

讃美歌 第二篇 167

祈り 天にいます最も愛するお父様。イエス様の犠牲による救いの奇蹟を感謝します。無償で与えられたこの贈り物に対して、あなたをほめたたえます。キリストを私の人生の王とすることを宣言します。今日の私の全ての言葉と行いが、イエス様の栄光をあらわすものとなりますように。

イエス様を通して祈ります。アーメン。

ダナ・メレネス

テキサス州 ヴィクトリア

ほこりの中の聖なる指

聖書朗読 ヨハネ 8:1~11

すると、律法学者とパリサイ人が、姦淫の場で捕らえられたひとりの女を連れて来て、真ん中に置いてから、イエスに言った。「先生。この女は姦淫の現場でつかまえられたのです。モーセは律法の中で、こういう女を石打ちにするように命じています。ところで、あなたは何と言われますか。」彼らはイエスをためしてこう言ったのである。それは、イエスを告発する理由を得るためであった。しかし、イエスは身をかがめて、指で地面に書いておられた ヨハネ 8:3~6

ある女性が姦淫の罪で逮捕されました。辱めを受けた上に、石打ちにされるどころでした。いや、イエス様の見事なまでの応答がなかったら、恐らく石打ちになっていたことでしょう。イエス様はこの女性を告発した者たちに対して、簡潔ながらも核心をつくお答えをなさいました。そしてこの一言により、イエス様はご自身に対して仕掛けられた罠をかいくぐられただけでなく、女性の命を救い、暴徒たちを退けられたのでした。しかし不思議に思いませんか。イエス様はなぜ地面に書き続けておられたのでしょうか。

地面に書かれたのが何であったかについての好奇心は、イエス様が行われた最も明らかな憐れみの行動に私たちが注目するのに、邪魔かもしれません。イエス様の前には辱められた女性がいようが、一つの命が救われたために逆に恥を知る結果となった独善的な男たちがいようが、イエス様のなさることは同じでした。ご自身の注目の先を地面に移されたことで、彼らがイエス様の視線によって更なる辱めを受けるのを優しく拒まれたのでした。イエス様のまなざしは、他の人々に同調して人の心を突き刺すようなものではありませんでした。イエス様の指は、誰かと一緒に人を非難したり、追及したりするためのものではありませんでした。

私たちの人生において、イエス様の御手が触れてくださる時もそうです。汚くてほこりだらけの私たちの争いに御手を伸ばしてくださり、聖なる指が罪から私たちを優しく救い出してくださいませ。私たちの心が、そのことによって罪に定められるものではありません。そうではなくて、主が驚くべき愛によって、私たちのほこりの中に聖なる指を入れてくださるのです。

讃美歌 285

祈り お父様、あなたの驚くべき愛に感謝します。あなたの御手がふれてくださることを信じます。今日もあなたの優しい御手が、私たちを導いてくださいますように。

イエス様の御名によって祈ります。アーメン。

デイヴィッド・パウンズ
テキサス州 ラボック

「わたしはある」というお方

聖書朗読 出エジプト 8:54~59

神はモーセに仰せられた。「わたしは、『わたしはある』という者である。」また仰せられた。「あなたはイスラエル人にこう告げなければならない。『わたしはある』という方が、私をあなたがたのところに遣わされた』と。」 出エジプト 3:14

ユダヤ人たちは、イエス様にヨハネの福音書8:25で次のように尋ねました。『あなたはだれですか。』。人々は今日の時代にあってもこの質問を投げかけます。リベラルな神学者はイエス様を偉大な師であったと言いましたが、神であったとは決して言いませんでした。しかし8:58でイエス様はこのように言われました。『まことに、まことに、あなたがたに告げます。アブラハムが生まれる前から、わたしはいるのです。』これこそが、イエス様が主張されてきたことで、ユダヤ人たちは次の59節の行動にある通り、この意味をはっきりと理解しました。『すると彼らは石を取ってイエスに投げつけようとした。』。ユダヤ人たちは、イエス様が神を冒瀆したと判断したのでした。

この問題は、イエス様ご自身についてです。ヨハネの福音書14:6では、『わたしが神様に至る唯一の道である』と宣言されています。何事においても複数の選択肢がある今日の世界において、一般的には神様へ至る道もたくさんあり、どれが一番良いという訳ではないと教えられています。ユダヤ人たちはイエス様に対して一つの決断をくださなければならない状態になった時、間違った決断をくだしました。私たち個人も、何か決断をする機会が与えられた時、自分で選択しなければなりません。イエス様を神様と認めるか、認めないか。真実の人であると思うか、ペテン師と思うか。唯一の救い主と信じるか、信じないか。そして私たちの選択はイエス様ご自身に影響を及ぼすことはありません。イエス様は偉大な「わたしはある」というお方です。私はこの偉大な「わたしはある」という方の御前にひれ伏すことを選択します。

讃美歌 121

祈り 愛する主よ。私たちに、あなたが誰であるかをはっきりとお示しになるために、イエス様をこの世に送ってくださりありがとうございます。信仰深くイエス様に従っていただけますように助けてください。

イエス様の聖なる尊き御名によって。アーメン。

デイル・フォスター
テキサス州 サイプレス

10月27日(土)

神様を見ること

聖書朗読 ヨハネ 14:5~14

いまだかつて神を見た者はいない。父のふところにおられるひとり子の神が、神を説き明かされたのである。
ヨハネ 1:18

私は主人の父方の祖母が生きている間、一度も会う機会がありませんでしたが、ずっと彼女のことを知っていたような気がします。恐らくそれは、主人や他の親戚たちがよくおばあさんの話をしてくれたからなのですが、それ以外にも、主人を通しておばあさんの人間性が垣間見えることがあるからだと思います。ある部分において、主人はおばあさんの生き写しのようなのです。

ヨハネの福音書1:18で、ヨハネはいまだかつて神様を見た者はなく、唯一の御子イエス様が神様を説き明かされたのだと記しています。そしてイエス様の教えや語られた言葉だけでなく、もう一人の助け手として、真理の御霊がこの地上において私たちとともに住み、私たちのうちにいてくださることで、神様が明らかにされるとも書いてあります。今日の聖書箇所ではイエス様は、『わたしを見た者は、父を見たのです。なぜならば、わたしのうちにおられる父が話し、ご自分のわざをしておられるのです。』と語られました。イエス様こそが、父なる神様の生き写しなのです。

神様の子どもとして私たちは今日も、世の中の人々にみことばを語り、自分たちの行動を通して神様の愛を見せることで、神様を伝える機会が与えられています。私たち一人ひとりが、父なる神様の御心を示す者となれるよう、日々励んでまいりましょう。

讃美歌 279

祈り 愛する主よ。どうか、人があなたの輝くイメージを私たちの内側から見る
ことができますように、私たちの心を変えてください。

御子イエス様の御名によって祈ります。アーメン。

ジャン・ノックス

テキサス州 グランビューリー

10月28日(日)

変わることをない神様のご臨在

聖書朗読 ヨハネ 14:15~21

すると、モーセは言った。「どうか、あなたの栄光を私に見せてください。」
出エジプト 33:18

何世紀にもわたり、人々は神様のご臨在を願い求めてきました。モーセは、神様のご臨在をはっきりと確信できるまでは、イスラエルの民を導くことに消極的でした。ユダヤ教のラビたちは、シェキナーと呼ばれる神の顕現について、何が起こったのか議論しました。かつて荒野の旅路において、火の柱の中に明らかにされた神の顕現が消えてしまったからです。危機の中にある時、彼らは心配になります。「神様はいつたいどこにいらっしゃるのだろうか」。

イエス様は、この問いに答えるために地上に来てくださいました。イエス様は私たちに見えるかたちでお見えになり、そして今は、私たちの間に聖霊様を通して永遠に存在してくださいます。イエス様は苦しみや悲劇から逃げることを約束はされませんでした。私たちの試練の時には決して一人にしないと約束してくださいました。『わたしは、あなたがたを捨てて孤児にはしません。』(ヨハネ14:18a)。

若い頃は、時々強い孤独感に襲われたことがありました。しかし礼拝が、私を神様へと導いてくれました。私は神様を探し、そして見つけました。みことば、讃美歌、祈り、兄弟姉妹との交わりを通して、すばらしい真実を発見しました。私は決して孤児ではないという真実を。インマヌエルのキリストこそが、真に「私たちと共にいてくださる神」であるということです。トーマス・クリスホルムの言葉が私の心のベルを鳴らし続けています。

主よ、共にいてください!

あなたが授けてくださるどんな贈り物や祝福も比べものになりません。

変わることをないご臨在をいつも感じていただけること

どこにいてもあなたがそばにいて下さると感じていたいのです。

讃美歌 399

祈り 聖なる慰め主であり、私の友であり、仲裁者であられる神様。あなたが永遠に、私と共にいてくださる約束を感謝します。どうかこの忘れやすい私を赦し、あなたのみことばに耳を傾けられるよう、私の心を整えてください。

イエス様の御名によって。アーメン。

ダリル・ティッペンス

カリフォルニア州 マリブ